

◆ 今週のコメント (感染地域、感染経路については推定を含みます。)

- 腸管出血性大腸菌感染症の報告が1例(50歳代女性)ありました。本年の累積報告数は23例となりました。発生状況の週別推移や血清型別患者数などの詳しい情報については、下記URLを御参照ください。
○腸管出血性大腸菌感染症発生状況(衛生環境研究所ホームページ)
<http://www.city.kyoto.lg.jp/hokenfukushi/page/0000068305.html>
- A型肝炎の報告が1例(30歳代男性)(第35週追加報告分)ありました。症状は全身倦怠感及び黄疸で、感染地域は国内です。本年の累積報告数は11例となりました。
- カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症の報告が1例(80歳代男性)あり、感染経路は手術部位感染です。本年の累積報告数は25例となりました。
- 梅毒の報告が2例(50歳代男性及び20歳代女性)(第35週追加報告分含む)ありました。本年の累積報告数は49例となりました。
梅毒の感染経路はほとんどが性的接触です。不特定多数との性的接触を避け、コンドームの使用などの予防策をとってください。重症化及び感染拡大を防ぐためには早期発見、早期治療が非常に重要です。
梅毒の感染経路や治療、予防等に関しては、下記ホームページを御覧ください。
○京都市情報館「京都市衛生環境研究所にゆーず(平成29年度第1号)「性感染症」って何？」
<http://www.city.kyoto.lg.jp/hokenfukushi/cmsfiles/contents/0000175/175313/29-1.pdf>
京都市では、平日昼間、土日及び夜間にHIV・性感染症(梅毒・淋菌・クラミジア)検査を実施しています。詳細については、下記のホームページを御覧ください。
○京都市情報館「京都市のHIV検査について(平成29年度から検査体制を変更しました。)」
<http://www.city.kyoto.lg.jp/hokenfukushi/page/0000047908.html>
- 風しん(臨床診断例)の報告が1例(20歳代女性)あり、症状は発熱、咳、結膜充血、発疹、リンパ節腫脹です。感染地域、感染経路は不明です。本年の累積報告数は4例となりました。
- RSウイルス感染症の定点当たり報告数は2.40でした。前週の1.3倍、過去5年平均の2.7倍で、大きく増加しています。

◆ 今週のトピックス: <蚊媒介感染症>

蚊媒介感染症とは、病原体を保有する蚊に咬まれることによって起こる感染症のことで、ウイルス疾患であるデング熱、チクングニア熱、ジカウイルス感染症、日本脳炎、ウエストナイル熱、原虫疾患であるマラリアなどがあります。詳細をトピックスに掲載しています。

◆ 発生状況

全数把握の感染症

- 二類:結核 3例(肺結核 2例, その他結核 なし, 潜在性結核感染者 1例)うち喀痰塗抹陽性 なし
【1月以降の累積報告数 229例(肺結核 98例, その他結核 60例, 潜在性結核感染者 71例)うち喀痰塗抹陽性 56例】
- 三類:腸管出血性大腸菌感染症 1例【1月以降の累積報告数23例】
- 四類:A型肝炎 1例【1月以降の累積報告数 11例】
- 五類:カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症 1例【1月以降の累積報告数 25例】
- 五類:梅毒 2例【1月以降の累積報告数 49例】
- 五類:風しん(臨床診断例) 1例【1月以降の累積報告数 4例】

定点把握の主な感染症

(市内定点数 インフルエンザ定点69, 小児科定点43, 眼科定点10, 基幹定点1)

定点	感染症名	定点当たり報告数	報告数
インフルエンザ*	インフルエンザ	0.00	0
小児科 (降順5位まで)	① 感染性胃腸炎	4.93	212
	② RSウイルス感染症	2.40	103
	③ 手足口病	1.35	58
	④ A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	0.98	42
	⑤ ヘルパンギーナ	0.86	37
眼科	流行性角結膜炎	0.50	5

【次ページ以降の主な内容】

発生状況の概況グラフ / 今週のトピックス: <蚊媒介感染症>

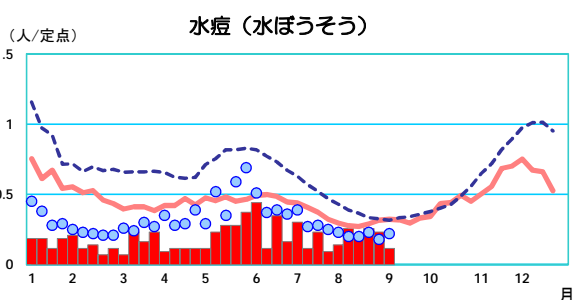
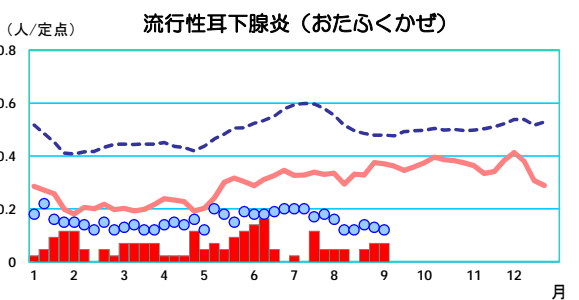
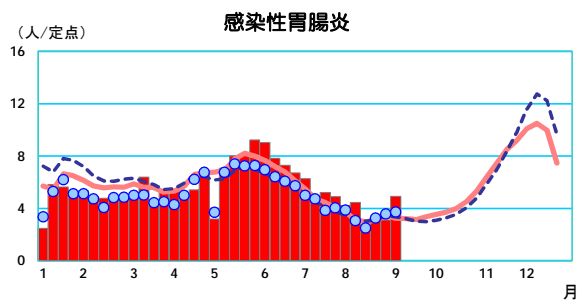
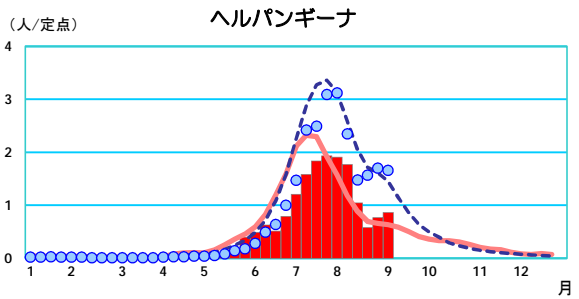
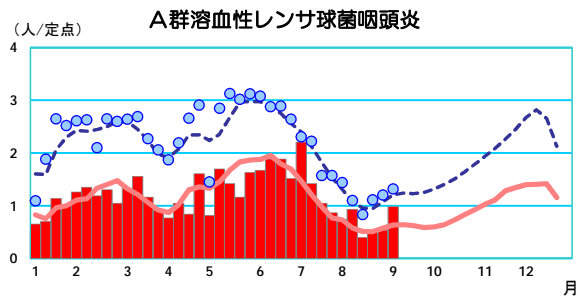
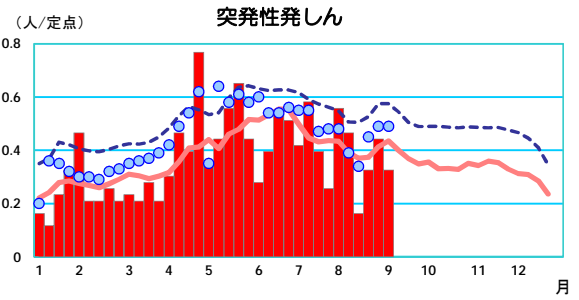
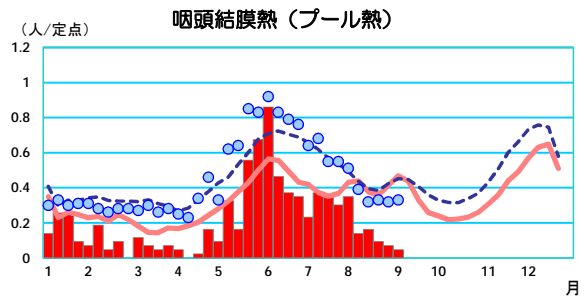
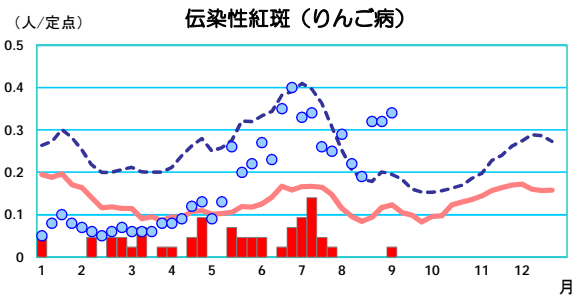
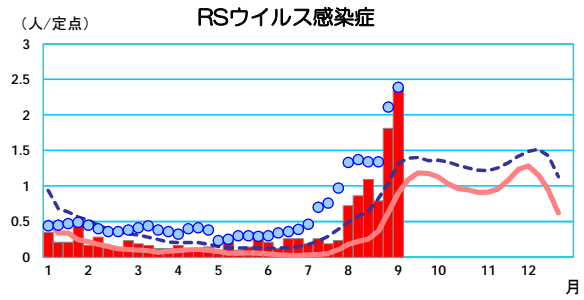
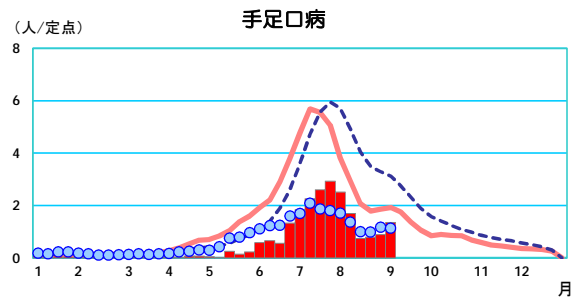
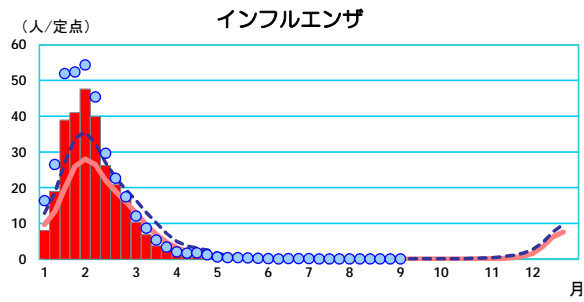
付表(疾病, 行政区別報告数 / 年齢階級, 疾病別報告数 / 週, 疾病別報告数)

(注)京都市のデータは、平成30年9月12日現在の報告数で、全国の還元データと若干異なる場合があります。

また、本情報での患者数は、届出医療機関所在地での集計で、患者の住所を示すものではありません。

* 感染地域及び感染経路については推定を含みます。

インフルエンザ及び小児感染症の疾病別推移グラフ（平成30年）



第36週(9月3日～9月9日) トピックス: <蚊媒介感染症>

蚊媒介感染症とは、病原体を保有する蚊に咬まれることによって起こる感染症のことで、ウイルス疾患であるデング熱、チクングニア熱、ジカウイルス感染症、日本脳炎、ウエストナイル熱、原虫疾患であるマラリアなどがあります。

人へ感染させる蚊の種類は、感染症によって異なり、ヤブカ属(チクングニア熱、デング熱等)、ハマダラカ属(マラリア)、イエカ属(日本脳炎、ウエストナイル熱等)に分類できます。

日本における蚊媒介感染症の年間報告数は、300～450で推移し、どの年もデング熱とマラリアが大部分を占めています(図1)。これらの疾患は日本脳炎を除いて海外からの輸入感染症ですが、2014年には69年ぶりに国内でデング熱の感染例が確認されました。グローバル化が進み訪日外客数が年々2割以上増加している昨今(図2)、新たに海外から持ち込まれるリスクが年を追うごとに高まっています。

ところで、これら疾患を媒介する蚊は、一般に卵期間(数日～数ヶ月)、幼虫期間(7～10日)、蛹期間(3～5日)、成虫寿命(1ヶ月以上)というサイクルで一生涯を過ごします。そして、成虫のメスは、昼間の屋外(特に朝夕の日陰)で吸血活動を行い、小さな水溜りに産卵します。また、吸血活動がもっとも活発化するのには気温が26～32℃とされています。さて、今年の京都は、猛暑で少雨の日が多い8月でしたが、この間蚊の吸血活動も鈍っていた可能性があります。しかし、9月に入って気温が下がり、雨の日も多くなり(図3)、蚊の活動が活発化する環境が整ってきました。

したがって、これから蚊の防虫対策を含め、蚊媒介感染症に注意する必要があります。京都市衛生環境研究所では、ホームページ上で蚊に関する情報を紹介していますので、ぜひ御覧ください。

【京都市情報館】京都市衛生環境研究所にゆーす(平成28年度 第1号) 蚊の特集～身近にある大きな脅威
<http://www.city.kyoto.lg.jp/hokenfukushi/cmsfiles/contents/0000227/227333/news28-01.pdf>

【京都市情報館】蚊が媒介する感染症について 京都市保健福祉局医療衛生推進室健康安全課
<http://www.city.kyoto.lg.jp/hokenfukushi/page/0000202072.html>

海外旅行でも感染の危険があります。以下のホームページを参考に、蚊が媒介する感染症から身を守りましょう。

【厚生労働省検疫所】虫除け対策をしよう
<http://www.forth.go.jp/useful/attention/14.html>

図1 全国の蚊媒介感染症報告数の年別推移

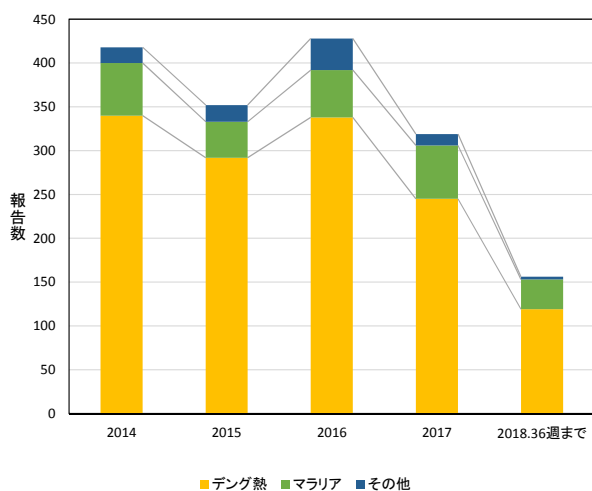
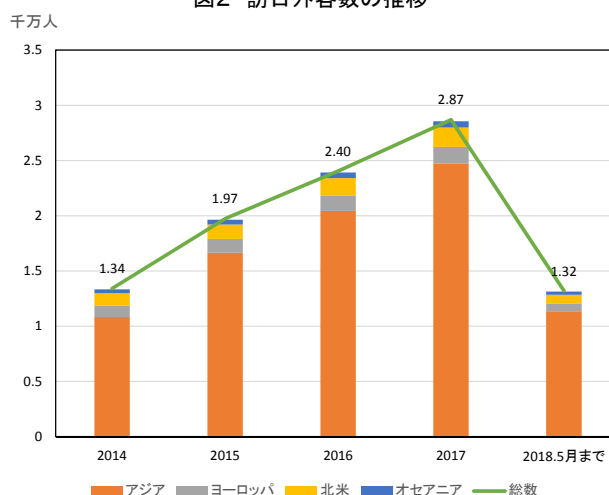
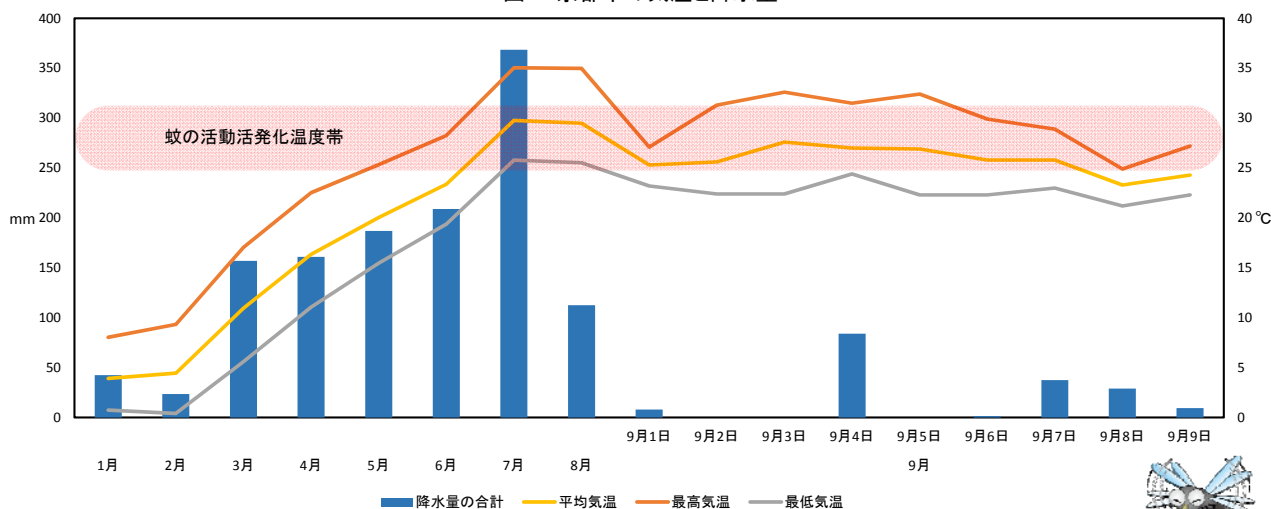


図2 訪日外客数の推移



出典: 日本政府観光局(JNTO)

図3 京都市の気温と降水量



T3201

京都市感染症発生動向調査情報

集計対象:平成30年第36週

疾病,行政区別報告数

平成30年9月3日～平成30年9月9日

データ入手日:平成30年9月12日

	インフルエンザ(※1)	RSウイルス感染症	咽頭結膜熱	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	感染性胃腸炎	水痘	手足口病	伝染性紅斑	突発性発しん	ヘルパンギーナ	流行性耳下腺炎	急性出血性結膜炎	流行性角結膜炎	細菌性髄膜炎(※2)	無菌性髄膜炎	マイコプラズマ肺炎	クラミジア肺炎(※3)	感染性胃腸炎(※4)
男女合計	-	-	-	3	1	-	-	-	-	-	-	-	3	-	-	-	-	-
北	-	-	-	3	1	-	-	-	-	-	-	-	3	-	-	-	-	-
上京	-	2	1	-	17	-	1	-	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-
左京	-	21	-	2	77	2	15	-	1	-	2	-	-	-	-	-	-	-
中京	-	5	-	2	6	-	3	-	1	4	-	-	-	-	-	-	-	-
東山	-	8	-	1	12	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-
山科	-	10	-	3	3	-	9	-	3	6	-	-	1	-	-	-	-	-
下京	-	-	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
南	-	2	-	2	12	-	2	-	3	4	-	-	-	-	-	-	-	-
右京	-	25	1	17	18	-	9	1	3	6	-	-	1	-	-	-	-	-
伏見	-	27	-	9	49	1	16	-	2	6	1	-	-	-	-	-	-	-
西京	-	3	-	1	17	2	3	-	1	8	-	-	-	-	-	-	-	-
京都市計	-	103	2	42	212	5	58	1	14	37	3	-	5	-	-	-	-	-

疾病,行政区別定点当たり報告数

	インフルエンザ(※1)	RSウイルス感染症	咽頭結膜熱	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	感染性胃腸炎	水痘	手足口病	伝染性紅斑	突発性発しん	ヘルパンギーナ	流行性耳下腺炎	急性出血性結膜炎	流行性角結膜炎	細菌性髄膜炎(※2)	無菌性髄膜炎	マイコプラズマ肺炎	クラミジア肺炎(※3)	感染性胃腸炎(※4)
男女合計	-	-	-	0.75	0.25	-	-	-	-	-	-	-	3.00	-	-	-	-	-
北	-	-	-	0.75	0.25	-	-	-	-	-	-	-	3.00	-	-	-	-	-
上京	-	0.67	0.33	-	5.67	-	0.33	-	-	0.67	-	-	-	-	-	-	-	-
左京	-	5.25	-	0.50	19.25	0.50	3.75	-	0.25	-	0.50	-	-	-	-	-	-	-
中京	-	1.67	-	0.67	2.00	-	1.00	-	0.33	1.33	-	-	-	-	-	-	-	-
東山	-	4.00	-	0.50	6.00	-	-	-	-	0.50	-	-	-	-	-	-	-	-
山科	-	2.00	-	0.60	0.60	-	1.80	-	0.60	1.20	-	-	1.00	-	-	-	-	-
下京	-	-	-	1.00	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
南	-	0.67	-	0.67	4.00	-	0.67	-	1.00	1.33	-	-	-	-	-	-	-	-
右京	-	5.00	0.20	3.40	3.60	-	1.80	0.20	0.60	1.20	-	-	1.00	-	-	-	-	-
伏見	-	3.86	-	1.29	7.00	0.14	2.29	-	0.29	0.86	0.14	-	-	-	-	-	-	-
西京	-	0.60	-	0.20	3.40	0.40	0.60	-	0.20	1.60	-	-	-	-	-	-	-	-
京都市計	-	2.40	0.05	0.98	4.93	0.12	1.35	0.02	0.33	0.86	0.07	-	0.50	-	-	-	-	-

※1 インフルエンザは、鳥インフルエンザ及び新型インフルエンザ等感染症は除くが、新型インフルエンザのうち、A/H1N1については含む。

※2 細菌性髄膜炎は髄膜炎菌、肺炎球菌、インフルエンザ菌を原因として同定された場合を除く。

※3 クラミジア肺炎はオウム病を除く。

※4 感染性胃腸炎は病原体がロタウイルスであるものに限る。

京都市感染症発生動向調査情報

集計対象:平成30年第36週

年齢階級, 疾病別報告数

平成30年9月3日～平成30年9月9日

データ入手日:平成30年9月12日

Table with 22 columns (age groups) and multiple rows (diseases) for Kyoto City. Rows include: 京都市, 男女合計, インフルエンザ (※1), RSウイルス感染症, 咽頭結膜熱, Δ群溶血性レンサ球菌咽頭炎, 感染性胃腸炎, 水痘, 手足口病, 伝染性紅斑, 突発性発しん, ヘルパンギーナ, 流行性耳下腺炎, 急性出血性結膜炎, 流行性角結膜炎, 細菌性髄膜炎 (※2), 無菌性髄膜炎, マイコプラズマ肺炎, クラミジア肺炎 (※3), 感染性胃腸炎 (※4).

年齢階級, 疾病別定点当り報告数

Table with 22 columns (age groups) and multiple rows (diseases) for Kyoto City, showing rates per point. Rows include: 京都市, 男女合計, インフルエンザ (※1), RSウイルス感染症, 咽頭結膜熱, Δ群溶血性レンサ球菌咽頭炎, 感染性胃腸炎, 水痘, 手足口病, 伝染性紅斑, 突発性発しん, ヘルパンギーナ, 流行性耳下腺炎, 急性出血性結膜炎, 流行性角結膜炎, 細菌性髄膜炎 (※2), 無菌性髄膜炎, マイコプラズマ肺炎, クラミジア肺炎 (※3), 感染性胃腸炎 (※4).

※1 インフルエンザは、鳥インフルエンザ及び新型インフルエンザ等感染症は除くが、新型インフルエンザのうち、A/H1N1については含む。

※2 細菌性髄膜炎は髄膜炎菌、肺炎球菌、インフルエンザ菌を原因として同定された場合を除く。

※3 クラミジア肺炎はオウム病を除く。

※4 感染性胃腸炎は病原体がロタウイルスであるものに限る。

T3203

京都市感染症発生動向調査情報

集計対象:平成30年第36週

週, 疾病別報告数

データ入手日:平成30年9月12日

京都市 男女合計	5週前	4週前	3週前	2週前	1週前	今週
インフルエンザ (※1)	1	-	-	1	-	-
RSウイルス感染症	31	37	47	34	78	103
咽頭結膜熱	15	6	7	4	3	2
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	32	40	17	23	23	42
感染性胃腸炎	181	192	108	137	134	212
水痘	6	11	9	11	10	5
手足口病	108	73	32	34	38	58
伝染性紅斑	-	-	-	-	-	1
突発性発しん	24	20	7	14	19	14
ヘルパンギーナ	82	76	45	25	33	37
流行性耳下腺炎	2	2	-	2	3	3
急性出血性結膜炎	-	-	-	-	-	-
流行性角結膜炎	8	3	1	4	4	5
細菌性髄膜炎 (※2)	-	-	-	-	-	-
無菌性髄膜炎	-	-	-	-	-	-
マイコプラズマ肺炎	-	-	-	-	-	-
クラミジア肺炎 (※3)	-	-	-	-	-	-
感染性胃腸炎 (※4)	-	-	-	-	-	-
合計	490	460	273	289	345	482

週, 疾病別定点当たり報告数

京都市 男女合計	5週前	4週前	3週前	2週前	1週前	今週
インフルエンザ (※1)	0.01	-	-	0.01	-	-
RSウイルス感染症	0.72	0.86	1.09	0.79	1.81	2.40
咽頭結膜熱	0.35	0.14	0.16	0.09	0.07	0.05
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	0.74	0.93	0.40	0.53	0.53	0.98
感染性胃腸炎	4.21	4.47	2.51	3.19	3.12	4.93
水痘	0.14	0.26	0.21	0.26	0.23	0.12
手足口病	2.51	1.70	0.74	0.79	0.88	1.35
伝染性紅斑	-	-	-	-	-	0.02
突発性発しん	0.56	0.47	0.16	0.33	0.44	0.33
ヘルパンギーナ	1.91	1.77	1.05	0.58	0.77	0.86
流行性耳下腺炎	0.05	0.05	-	0.05	0.07	0.07
急性出血性結膜炎	-	-	-	-	-	-
流行性角結膜炎	0.80	0.30	0.10	0.40	0.40	0.50
細菌性髄膜炎 (※2)	-	-	-	-	-	-
無菌性髄膜炎	-	-	-	-	-	-
マイコプラズマ肺炎	-	-	-	-	-	-
クラミジア肺炎 (※3)	-	-	-	-	-	-
感染性胃腸炎 (※4)	-	-	-	-	-	-
合計	12.00	10.93	6.43	7.02	8.33	11.59

※1 インフルエンザは、鳥インフルエンザ及び新型インフルエンザ等感染症は除くが、新型インフルエンザのうち、A/H1N1については含む。

※2 細菌性髄膜炎は髄膜炎菌、肺炎球菌、インフルエンザ菌を原因として同定された場合を除く。

※3 クラミジア肺炎はオウム病を除く。

※4 感染性胃腸炎は病原体がロタウイルスであるものに限る。